松山市観光振興計画　第２回ワークショップ

■日時・場所

日時：　令和８年 10 月 14 日（火）１４時３０分～１６時３０分

場所：　松山市教育研修センター

■出席者

別添「出席者名簿」のとおり

■議事内容

１．開会

２．司会進行

・松山市の課題整理　（資料説明）

・松山市の観光振興に対する基本的な考え方について（資料説明）

・第２回ワークショップの検討事項

WS①　松山が優先的に呼び込みたいターゲット・誰に選ばれるまちをめざすか？

WS②　ターゲットに提供したい“松山ならではの過ごし方”
＝回遊性向上など、より長く滞在してもらうためのアイデア

WS③　観光振興の取り組みに市民の皆さんにも参加していただく仕組みについて

WS④　松山市の観光振興に対する意見・要望

グループ毎に発表

グループ④（メンバー別紙）

・欧米豪の富裕層・高単価層をターゲットに、海・山の自然を活かした周遊、植樹などのサステナビリティ体験、歴史・文化（正岡子規等）の再評価、データ分析人材育成を提言。

・広島などゴールデンルート来訪の欧米豪インバウンドを松山・愛媛へ誘致するには、本物志向の文化体験や植樹・環境保全などサステナビリティ体験を組み込んだ高付加価値・滞在型コンテンツの造成が必要。

・欧米豪はサステナビリティ関心が高く、植樹やシーグラス収集などの環境貢献型体験がリピーター獲得に有効。

・持続的な観光振興には、経済指標だけでなく文化の再評価、データ分析・マネジメント人材の育成が必要。

質疑応答

Q サステナブルを感じてもらう具体的体験は？

4 班発表者: 食事や植樹体験を想定。植樹は再訪の動機付けとなり、貢献実感を生む。魚島でのシーグラス拾いと作品作りなど、環境美化と創作を兼ねた体験も考えている。

グループ ③（メンバー別紙）

・国内の食・地酒ファンと訪日リピーターをターゲットに、公園での地酒×郷土料理ナイトイベント、チャーター船での瀬戸内周遊、AI による市民おすすめルート生成、駅起点の二次交通整備を提案。

・愛媛・松山ならではの食文化、地酒、歴史（道後温泉本館、松山城、正岡子規等）に独自のストーリー性を付与し、ナイトタイムエコノミーや周辺地域への周遊と結びつけることが重要。

・地酒×郷土料理のナイトイベント（ほろ酔いマルシェ等）は宿泊需要を直接喚起。

・松山に地酒・観光情報を集約し、JR 駅を拠点に酒蔵や飲食店へ案内する移動導線整備が効果的。

質疑応答

Q　3 班の地酒・郷土料理イベントは瀬戸内他地域とも重複しがち。松山ならではの強みの見せ方、地元協力は？

3 班発表者: 県内酒蔵情報を松山に集約し、JR 駅を拠点に近隣の酒蔵・飲食店へ直接案内できる移動サポート・二次交通の整備で広域の魅力を発信。

グループ ②（メンバー別紙）

・強みであるシニア層（ラグジュアリー・歴史ストーリー志向）の強化と欧米豪インバウンドの開拓を提案。道後温泉起点の県内周遊マップ設置、市民の推薦スポット発掘段階からの参画、近隣自治体との広域連携を提言。

・市民を巻き込むには、魅力の再発見・発掘の企画段階からの参画と、観光・インバウンドの経済・地域効果の丁寧な情報発信が不可欠。

・シニア層には老舗・歴史的建造物の「長く続く理由」という背景ストーリーの提供で高付加価値化が図れる。

・市民の愛着醸成には、観光マップや推薦リスト作成段階からの参加が重要。

質疑応答

Q　ファシリテーター: 2 班の欧米豪インバウンドの具体ターゲットは？

2 班発表者: 特に若年層。2028 年の国民文化祭などを見据え、瀬戸内を活かしたアートや自然体験で誘致したい。

グループ　①（メンバー別紙）

・広島まで来訪している本物志向の欧米豪旅行者と、将来の関係人口につながる学生旅行者をターゲットに設定。松山城石垣などの専門ガイド、夜間飲食（居酒屋・スナック）体験、学生ガイド導入、ストーリー性ある土産開発、交通機関の柔軟性向上を提案。

・単独自治体にとどまらない広域連携の推進、駅・観光地起点の二次交通（レンタカー、シャトルバス、JR 等）や駐車場の利便性向上が共通のインフラ課題。

・学生旅行者と若年層の地元ガイドをつなげることで、将来の関係人口・リピーター創出が期待できる。

・専門的ディープガイドや居酒屋・スナック巡りなど、非日常を味わえる具体的導線設計が有効。

■ワークショップ風景





